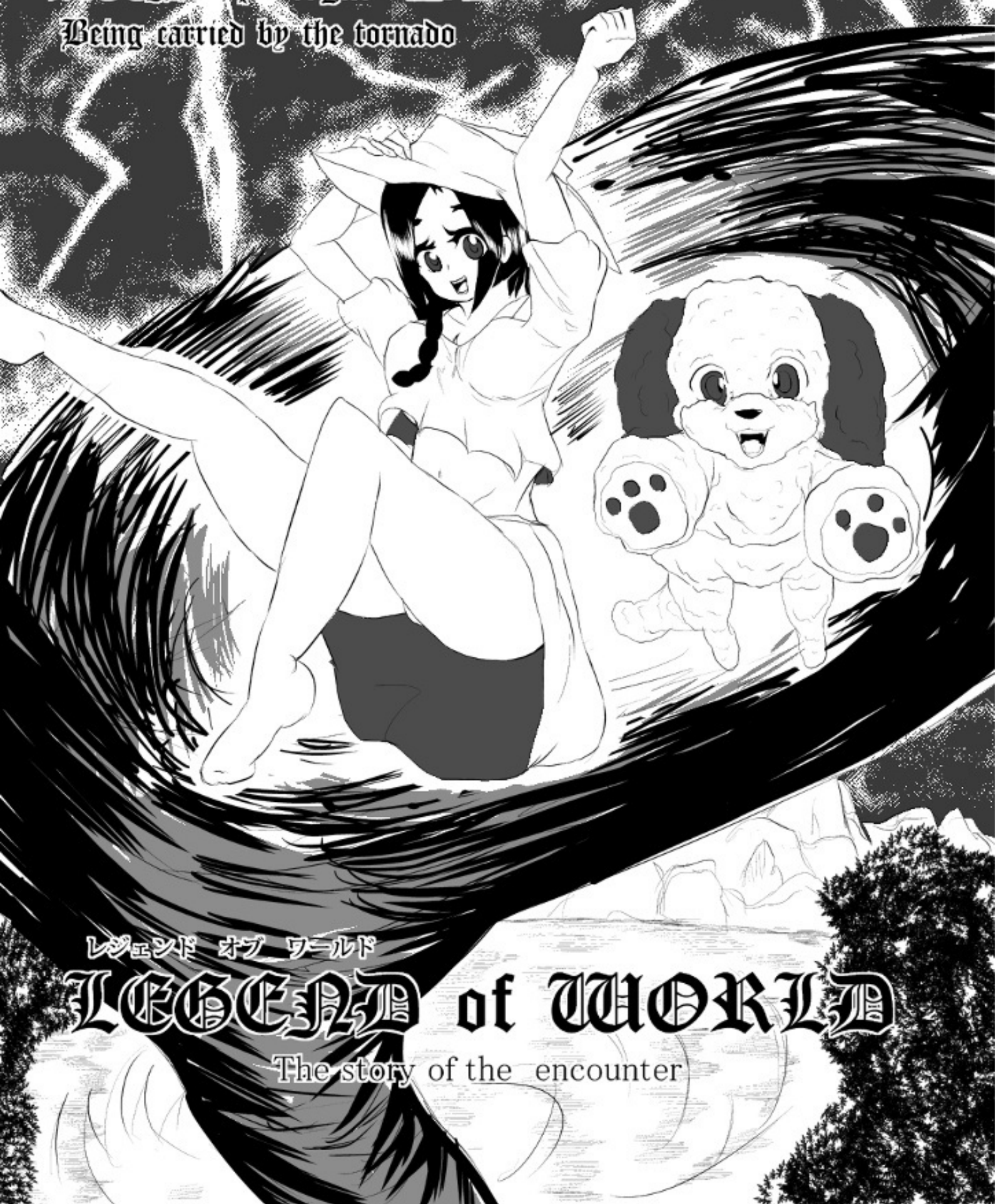


LEGEND prologue 竜巻に運ばれて

Being carried by the tornado



レジェンド オブ ワールド

LEGEND of WORLD

The story of the encounter

マーリンは言う.....

「君のお父さんは立派な王様だ。しかし・・・
いずれ災厄が訪れそしてお前が父に代わって王の座に立たなければならなくなる時がくるのだ
」

「僕が父の代わりに？ キャメロットに災厄？」

動揺する幼い少年にできるだけ頬を緩めて

「お前はその時までこの"王を選び出す剣"に相応しいほどの力を身につけなければならない」
(私はもう直き愛する女の手によってこの母なる大地深く眠らされてしまうだろう・・・
しかしお前はきっと"先導者"に巡り会える・・・そのとき私の見るこの未来の歯車が動き出してしま
うのだが・・・)

「ああ!! 今日もいい天気ねえ。妙に暑すぎる位だわ! なにか今日は起こりそうフフッ」
ぎゅっと寝起きの体を伸ばす少女。彼女の白い肌に光が反射する…。

わんわんと甲高い、でもかわいらしい犬の鳴き声。

子犬は少女に近寄るやいなや、胸に飛びこび甘えの印として白く細い手を甘噛みした。

「早く仕事終わらせて、トートーと遊ぶよ! 待っててね」

「ドロシーや、そろそろ畑に行く時間だよ。支度はできているかい?」

「ちょっと待ってて、おばあちゃん。すぐに着替えてくるね!」

畑には、今にもこぼれ落ちそうに沢山の実をつけた野菜達でいっぱいだった。

毎年恒例の"竜巻"が今年はまだ来ていないおかげで、新鮮な野菜が食べれそうだ。

「こんなに暖かいと、どこか涼しい木陰で昼寝したくなるわぁ」

こんな怠けた言葉を聞いたおばあさんは、少し口を尖らせた。

「あんた、さっきまで寝てたじゃないの! まだ若いんだから、そんな事いってないで沢山働いてちょうだい」

「はぁ～い」

一足先に畑で作業していたらしいお爺さんがほっぺを可愛げに膨らませているドロシーに近寄り

「こう見えても、おばあさんはドロシーにとっても感謝しているんだよ。いつもいつもドロシーの話になると、にこやかになるんだから。」

とささやいた。

「ありがとう。おじいさま!」

ドロシーは語る.....

どれくらい経ってたのだろう。

私、あのときは農作業に夢中だったからそんな事全然気にしてなかったわ!

雲一つない快晴だったのに、突然辺りがくらくなったのよ。

私の最愛の子犬、トートーが急に家の方からこっちに駆け寄ってきて、わんわん吠えていたわ。

その時はまだ風もたいしてなかったから、まさかあれが来るとは思ってもいなかった。

それから30分くらいかしら、特に気にもせず(逆に、日が陰ってくれたから好都合だったのよ!)作業していたら急に耳障りなゴーっていう音が辺りを取り巻いたわ。

そして、目の前には今まで見た事も無いような、巨大な”竜巻”があってね。

そう、この世の誰かが魔法でも使って呼び起こしたかのような竜巻。

(後になって分かった事だけど、実際”ある人”が呼び起こしたらしいわ)

そして、私はというと.....

「な、何なのよ!! うそでしょ・・・さっきまでの晴天が・・・
それに何あれ!! 今まで見てきた竜巻とはまるで違うじゃない!!」

今にも足が崩れてしまいそうなのを堪え、さっきから吠え続けているトートーをぎゅっと抱き上げた。

(こんな所でぼおとしてちゃダメ! 速く”竜巻部屋”へ逃げないと...)

だが、なかなか足が言う事をきいてくれない!

(どうして?? こんな時に金縛りみたいになるなんて! 私ったら呪われでもしちゃったの??)

遠くから祖父母の声が、竜巻の轟音にかき消されるように微かに聞こえる.....

「ドロシーや!! 早く逃げんかい!! そんな所にいたら連れ去られてしまうぞ!!」

(そんな事言われたって、全然動けないんだもの....!)

心の中で叫んでも、意味の無い事は分かっていた。

もう私の人生も終わりだと思い、トートーを腕から解放して逃げるよう促した。

しかし、トートーもまた、そこから動こうとはしなかった。動けないからではなく、主人を守ろうとして。

「トートー! もういいよ! ありがとね... 貴方だけでも生きて....」

涙が少女の目からこぼれ落ちた。それをやさしくなめてあげるトートーの舌は本当に温かい物だった。

(私のせいで...)

そして、とうとう竜巻は彼女達をひょいと飲み込み、勝ち誇ったような轟音をあげながらカンザスの土地を徘徊していった。

LEGEND of WORLD ～the story of the encounter～ prologue

<http://p.booklog.jp/book/37179>

著者 : livesonic

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/livesonic/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/37179>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/37179>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.